

分散効果を実感してもらったために

プラスワン提案後には

こんなアフターフォローが必要

金指光伸

ここでは、プラスワン提案後のアフターフォローにおいて、必要なアドバイスや次の提案につなげるためのポイントを解説する。

1 アフターフォローを行ううえで押さえておきたいポイント

プラスワン提案後のアフターフォローについてみてい

たい。当然ながら、一つの投資信託だけ保有している場合と、複数保有している場合では、アフターフォローのポイントも異なる。

食堂でエビが嫌いな人が天丼を注文することはないし、牛肉が嫌いな人が牛丼を注文することはない。しかし、好きなものだけを食

べていると、栄養のバランスが悪くなる。そこで、かつ丼が好きな人ならサラダとみそ汁を付けてかつ丼をとんかつ定食にするだけで、栄養のバランスは格段に向上する。

一つの投資信託だけ保有している場合と、複数保有している場合の比較はこれに似ている。「いま食べている丼では採れない栄養を

保有ファンドの値動きや損益をトータルで考える

く、基軸通貨を持っている安心感がある。

この二つの組合せで期待できる効果は、「リスクを抑えて、安定的なリターンを狙う」こと。結果として、期待リターン値は下がることになる。お客様がこれを正しく理解できているか確かめることが大切だ。プラスワン提案は「集中投資」から「分散投資」にシフトさせることなので、ルーレット

でいえば、一つの数字にかけていた人が、複数の数字にかける状態となる。リスクは分散されるが、リターンもマイルドになる。

次に、このような効果が狙える理由をお客様が正しく理解しているかも確認しておきたい。例えば「株式と債券の値動きは反対になる」「一般的に、金利が上がる局面では株式は上がるが、債券は下がる」「よってこの二つを組み合わせることでリスクは抑えられ、リターンは安定化する」といったことを理解したうえで運用できているかを確認。理解していないならば、しっかりと説明をして納得してもらおう。

「アフターフォローには、私たちのセールスとおお客様の理解のミスマッチ」を早期に見出す役割もある。お客様がプラスワン提案の狙いと分散投資の効果を理解していることが確認できたら、複数の投資信託を保有しているからこそできるフォローをしよう。



新築国債ファンドに先進国債券ファンドをプラスした場合、新興国債券ファンドのマーケット環境や運用状況だけでなく、先進国債券ファンドのそれも説明しなければならぬ。そのうえで二つを組み合わせた場合のトータルの運用成績を説明する必要も生じる。

単に「新興国ファンドの基準価額が上がった。先進国ファンドも上がった。トータルでも上がった」とではなく、「新興国には引き続き緩和マネーが流入し、先進国はアメリカを中心に景気回復が顕著だったため、株式が上がると同時に債券にも投資マネーの買いが入った。そのため、新興国、先進国の債券ファンドとも値上がりした」といった説明をしてほしい。

この場合は二つとも上がったので、分散効果がどう得られたのかは分かりにくい。しかし、前述の説明により、「先進国の金融緩和で生み出された緩和マネーが新興国の債券を買っている」「本来、株式が上がれば債券価額は下がるのだが、いまは緩和マネーが株式も債券も買っている。だから、アメリカなどは株が上がっているのに金利は上がっていないのだな」という「理解」がされる。

こうした理解が、「金融緩和が終了した場合、緩和マネーは新興国から流出する。そのお金が先進国に戻るなら、債券も買われるか

る。まずは「プラスワン提案をした狙いの再確認」を行いたい。前述のように、ブラジル債券ファンドに先進国債券ファンドをプラスした場合を考えてみよう。ブラジルは国民の平均年齢が20歳代後半と若く、資源も豊富で成長性がある。しかし、先のワールドカップでも分かるように、治安は良くないし、発展途上の国である。

そこで、アメリカ、ユーロ等の先進国をプラスすることで安定感が得られる。アメリカもユーロも金利は低く、成長性は期待できないかもしれないが、パイが大き

ら、金利は上がらないのではないかと、「先進国の景気が回復したら資源は新興国から買うので、新興国の景気も良くなるのではないかと」といった疑問につながる。

このようにお客様自身が疑問を感じるようになってくれば、「分散投資」への理解も深まる。最近のマーケットは説明が非常に難しいが、仮に「金融緩和が終了し、緩和マネーが新興国から流出して先進国に流入する」というシナリオを考えれば、新興国に先進国をプラスする分散効果は明らかだ。

景気が回復しインフレが起こり金利が上昇するのなら、債券ファンドに株式ファンドをプラスする分散効果は大きい。いまはこうした明かな説明はしにくいですが、逆に

なせ本来値動きが反対になると思われる資産が同じような値動きをしているのかを解説することは重要だ。値動きの背景をしっかりと伝えよう。

トータルでの損益を説明することと、プラスワン提案で期待した「狙い」が実現できているかを確認することがポイントとなる。

トータルでの損益を説明することと、プラスワン提案で期待した「狙い」が実現できているかを確認することがポイントとなる。